

■ 宮内庁宮内公文書館・堺市博物館・関西大学共催 ■

企画展「仁徳天皇陵と近代の堺」を開催

～ 9月14日(土)～11月10日(日)堺市博物館で～

関西大学では、宮内庁宮内公文書館、堺市博物館との共催により、企画展「仁徳天皇陵と近代の堺」を9月14日から11月10日まで堺市博物館において開催します。この企画展は、近代における陵墓と堺の人びととのつながりを、宮内公文書館が所蔵する公文書や地域に残されてきた資料、関西大学博物館が所蔵する資料からたどるものです。

関西大学が堺市との地域連携協定事業によって進めてきた、宮内公文書館所蔵の特定歴史公文書等の調査研究や、三次元レーザーを使用して実施した仁徳天皇陵における濠水調査の成果も併せて広く一般の方々に還元するものであり、その調査成果がまとまったことから、宮内庁宮内公文書館、堺市博物館、関西大学の三者の共催により実施することとなりました。なお、宮内庁宮内公文書館が地方自治体、大学と共催で展示会を開催することは、関西では初めてとなります。

本件の
ポイント

- 宮内庁宮内公文書館が地方自治体、大学と共催で開催する展示会は初めて
- 仁徳天皇陵と近代の堺の人びととのつながりを、宮内公文書館所蔵資料や関西大学博物館所蔵資料などから読み解くもの
- この展示会において、本学の研究成果を広く社会へと還元するもの

<以下、堺市報道提供資料より転載>

1 企画展名

仁徳天皇陵と近代の堺

2 会期等

令和6年9月14日(土)～11月10日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時15分(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日(9月16日、23日、10月14日、11月4日(いずれも月・祝)は開館)

3 展示会の内容

明治期以降の仁徳天皇陵では、宮内省諸陵寮(くないしょうしりょうりょう)が拝所等の整備を進め、陵墓の濠水(ほりみず)は周辺田畑への灌漑用水としても使用されていました。周辺住民にとって欠かせない生活資源として、仁徳天皇陵は日常生活に溶け込みながら維持・管理されてきました。一方で、行幸・行啓(ぎょうこう・ぎょうけい)など非日常的な営みのなかで、皇室と堺との新たな関係性が構築されるのも近代における特徴のひとつです。

堺の人びとが仁徳天皇陵を中心として密接に関わり合い、共存してきたことは宮内公文書館に残されている資料からうかがい知ることができます。本展示では宮内公文書館が所蔵する公文書と地域に残された資料から、仁徳天皇陵をはじめとする百舌鳥古墳群の陵墓の管理などを中心に、近代の皇室と堺との関係を読み解きます。

4 場所

堺市博物館展示場（堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁 大仙公園内）

交通：JR 阪和線「百舌鳥」駅下車 西へ約 500m

南海バス「堺市博物館前」停留所下車 南へ約 280m

5 観覧料

一般 200 円（160 円） / 高校・大学生 100 円（70 円） / 小・中学生 50 円（30 円）

※（ ）内は 20 人以上の団体料金

※堺市在住・在学の小・中学生は無料。堺市在住の 65 歳以上の方、障害のある方は無料（要証明書）

6 展示構成・主な展示資料

展示内容を 6 つの章に分け、近代における仁徳天皇陵と宮内省・地元との関わりを紹介します。

第 1 章	テーマ	近代における陵墓管理の始まり
	展示資料	仁徳天皇陵平面図（宮内公文書館蔵）、「御陵図」仁徳天皇陵 俯瞰（宮内公文書館蔵）など
第 2 章	テーマ	明治から戦前における仁徳天皇陵
	展示資料	仁徳天皇御陵前修営之図（宮内公文書館蔵）、 舩松村・向井村両村長による第三濠復旧の嘆願書（宮内公文書館蔵）など
第 3 章	テーマ	堺の人びとと仁徳天皇陵
	展示資料	百舌鳥古墳群配置図（個人蔵）、陵印軸（堺市博物館蔵）など
第 4 章	テーマ	堺への行幸・行啓と仁徳天皇陵の御参拝
	展示資料	明治天皇行幸 熊野小学校到着図（堺市立熊野小学校蔵）、 天皇・皇后の水族館行幸・行啓記事（宮内公文書館蔵）など
第 5 章	テーマ	写された陵墓～谷村為海の残した古写真を中心に～
	展示資料	仁徳天皇陵遠望写真（堺市博物館蔵）、 仁徳天皇陵拝所写真（堺市博物館蔵）など
第 6 章	テーマ	これからの仁徳天皇陵
	展示資料	パネル・映像にて構成

※詳細は別紙をご覧ください。

7 主催

宮内庁宮内公文書館、堺市博物館、関西大学

8 関連行事

(1) 講演会

日時	第 1 回：令和 6 年 9 月 22 日（日・祝）午後 1 時 30 分～午後 3 時 40 分 第 2 回：令和 6 年 10 月 6 日（日）午後 1 時 30 分～午後 3 時 40 分
会場	堺市博物館ホール
定員	各回 80 名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選）
参加費	無料

内容	第 1 回：講演「宮内公文書館所蔵資料からみる皇室と堺」 講師：毛利 拓臣 氏（宮内庁宮内公文書館研究職） 講演「濠水と阪和電鉄」 講師：官田 光史 氏（関西大学教授）
	第 2 回：講演「いつから百舌鳥古墳群として把握されたのか」 講師：白神 典之 氏（堺市博物館学芸員） 講演「三次元点群データを活用した仁徳天皇陵の維持管理」 講師：小山 倫史 氏（関西大学教授）

(2) シンポジウム

日時	令和 6 年 10 月 13 日（日）午後 1 時～午後 4 時 40 分
会場	関西大学堺キャンパス（堺市堺区香ヶ丘町 1 丁 11-1）
定員	300 名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選）
参加費	無料
内容	基調講演「近代における仁徳天皇陵の整備と保全」 講師：徳田 誠志 氏（関西大学客員教授） 講演①「明治期の仁徳天皇陵と地域社会」 講師：石川 雄大 氏（関西大学大学院生） 講演②「韓国の世界遺産からみた百舌鳥・古市古墳群とその時代」 講師：井上 主税 氏（関西大学教授） パネル討論 最新の調査成果を元に、陵墓の保全と継承をテーマに講演者で討論を実施します。

(3) 現地見学会

日時	令和 6 年 11 月 9 日（土） ① 午後 1 時～午後 2 時 30 分、② 午後 2 時 30 分～午後 4 時
定員	各回 20 名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選）
参加費	要観覧料
内容	企画展の展示解説の後、近代に古墳周辺で行われたさまざまな出来事を仁徳天皇陵拝所および外濠周辺の解説を聞きながら散策。（三国ヶ丘駅周辺で解散予定） 講師：徳田 誠志 氏、石川 雄大 氏、堺市博物館学芸員

(4) 展示解説

日時	① 令和 6 年 9 月 22 日（日・祝）午前 11 時～午前 11 時 30 分 ② 令和 6 年 10 月 6 日（日）午前 11 時～午前 11 時 30 分
会場	堺市博物館展示場
定員	各回 20 名程度（事前申込不要。開始時間までに企画展入口付近（展示場内）へ集合）
参加費	要観覧料
内容	企画展の担当学芸員が展示品を解説します。

関連イベント（1）～（3）の事前申込方法については、堺市博物館のホームページをご覧ください。

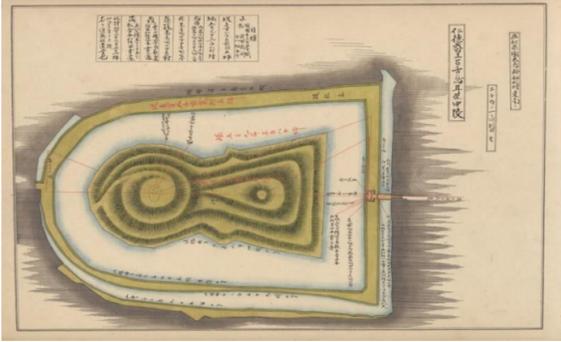
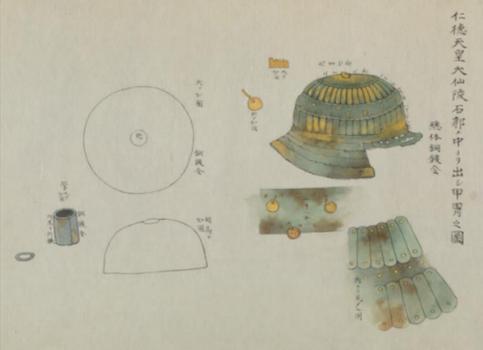
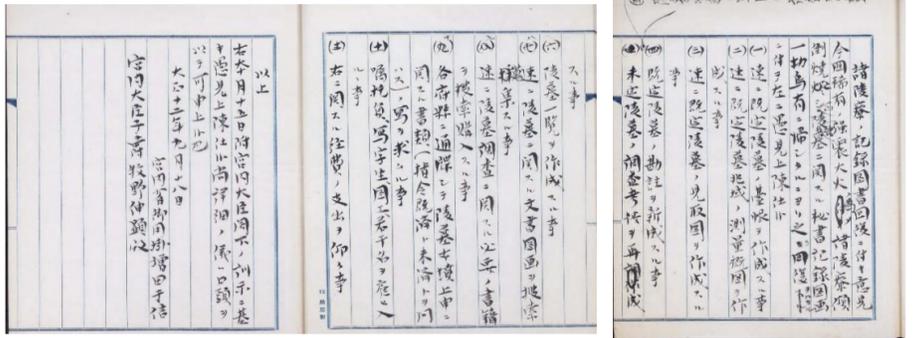
URL:https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/exhibition/kikaku_tokubetsu/kindainosakai.html

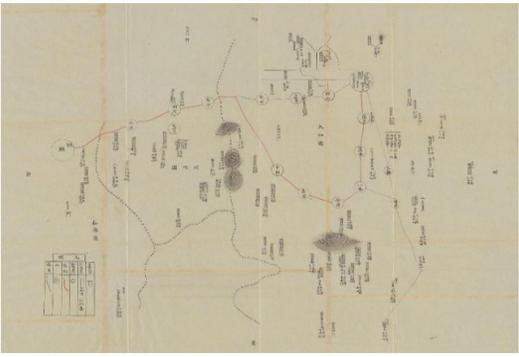
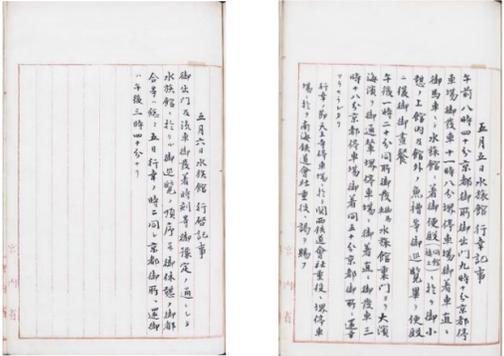
取材に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：小林、伊地知、明原

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 Tel. 06-6368-0007 Fax. 06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

資料名	説明	写真
<p>(1) 仁徳天皇陵平面図 (「陵墓資料(図帖類)御陵図」のうち)</p>	<p>明治12(1879)年に陵墓が所在する府県から、宮内省へ提出された各陵墓の実測図。宮内省が所蔵していた原本が関東大震災で焼失したために、大正14(1925)年に改めて大阪府、奈良県が所蔵していた控えの図を謄写して作成したものである。本資料には「三千分ノヲ以製之」の記載があり、焼失前の原図はもっと大きかった可能性が高い。(宮内公文書館蔵)</p>	
<p>(2) 甲冑図 (「陵墓資料(繪図類)仁徳天皇陵前方部発見石槨及び甲冑図七枚附大山陵より顕れし石棺の考へ/仁徳天皇大仙陵石槨ノ中ヨリ出シ甲冑之図」のうち)</p>	<p>明治5(1872)年9月、仁徳天皇陵の前方部中段において石室が開口した。この件についての記録は写本という形でいくつかの機関に所蔵されているが、個人が所蔵していた絵図を模写したものである。本資料は出土した副葬品のうち甲冑を描いた図である。冑は「総(惣)体銅鍍金(めっき)」の小札銀留眉庇付冑(ござねびょうどめまびさしつきかぶと)であり、全体図と各部の詳細図を描いている。(宮内公文書館蔵)</p>	
<p>(3) 仁徳天皇御陵前修営之図 (「工事録3明治21年」のうち)</p>	<p>仁徳天皇陵拝所を整備するため、京都在勤諸陵寮において作成された修営の完成予想図。拝所を俯瞰した形で描かれた図からは、神門などが取り払われ、鳥居や灯籠が一段高い場所に位置するように段差が設けられていることが分かる。そのほかに、門柱や柵などが石製に置き換わっている。(宮内公文書館蔵)</p>	
<p>(4) 舳松村・向井村両村長による第三濠復旧の嘆願書 (「陵墓地録明治29年」のうち)</p>	<p>明治27(1894)年6月8日、舳松村(へのまつ)・向井村(ともに現・堺市堺区)の両村長(正木治之、八木栄次郎)から、宮内大臣に宛てられた仁徳天皇陵第三濠復旧を望む嘆願書。まず復旧の目的について、仁徳天皇陵の警衛を堅固に保つためと述べられている。しかしその真意は、濠が増えることによる貯水量の増加を期待するものであり、その水を農業用に利用することを願っていると考えられる。(宮内公文書館蔵)</p>	
<p>(5) 諸陵寮ノ記録回復ニ付キ意見(草稿) (「陵墓資料(考説・考証資料)増田于信震災復旧関係草稿」のうち)</p>	<p>大正12(1923)年9月1日に発生した関東大震災は宮内省にも甚大な被害をもたらした。諸陵寮では、焼失した陵墓資料の復旧(復元)が宮内省御用掛の増田于信(ゆきのぶ)を中心に試みられた。この意見書は増田が宮内大臣の牧野伸顕宛てに作成したもの。9月21日に増田から宮内次官の関屋貞三郎に提出され、翌日、実施が決定された。(宮内公文書館蔵)</p>	
<p>(6) 陵墓守長筒井幸四郎ヲ陵墓監ニ任用ノ件 (「進退録2大正11年」のうち)</p>	<p>大正11(1922)年5月17日、陵墓守長筒井幸四郎が陵墓監に任用された際の公文書。筒井は中舌鳥村(現・堺市)の名士で、仁徳天皇陵をはじめ百舌鳥の陵墓全般を含めて担当した。摂政である裕仁親王(後の昭和天皇)に奏聞したことを示す「聞」の朱印が捺印されている。(宮内公文書館蔵)</p>	

<p>(7) 京都・奈良・大阪の陵墓位置図 (「帝室例規類纂25明治10年」のうち)</p>	<p>明治10 (1877) 年の京都・大和国行幸に伴い、式部寮によって京都・奈良・大阪に所在する陵墓の位置を示した図。この行幸は、神武天皇陵 (現・奈良県橿原市) の御参拝並びに孝明天皇十年祭を目的としたもので、各地の陵墓には使者である奉幣使 (ほうへいし) も差遣 (さけん) された。仁徳天皇陵には、2月16日に奉幣使多田好問 (式部寮七等出仕) が御代拝のため参向した。(宮内公文書館蔵)</p>	
<p>(8) 明治天皇行幸 小学校生徒授業天覧図</p>	<p>明治10 (1877) 年2月13日、明治天皇は熊野 (ゆや) 小学校へ行幸になった。本資料は後年、熊野小学校での授業天覧の様子を描いた額装絵画。作者は堺在住の芝村玉月 (しばむらぎよげつ)。芝村は昭和3 (1928) 年の「明治天皇御臨幸五十年記念」の事業として、絵画制作が依頼された。(堺市立熊野小学校蔵)</p>	
<p>(9) 天皇・皇后の水族館行幸・行啓記事 (「幸啓録6明治36年」のうち)</p>	<p>明治36 (1903) 年に、天皇・皇后 (昭憲皇太后) が行幸・行啓になった際の事務日誌。大阪天王寺で開催されていた第五回内国勸業博覧会の第二会場となっていた堺には、「附属水族館」(現・大浜公園内) が設置されていた。天皇・皇后は5月5日と同6日にそれぞれ水族館へと行幸・行啓になった。(宮内公文書館蔵)</p>	
<p>(10) 仁徳天皇陵遠望写真</p>	<p>昭和6 (1931) 年8月撮影。仁徳天皇陵を東側から撮影した写真で3カットに分割されたものを合成している。写真右側が後円部で右端には北側に所在する反正天皇陵がわずかに写りこむ。写真には鏡塚古墳、坊主山古墳、収塚古墳、長塚古墳など周辺の中小古墳が見られる。(堺市博物館蔵)</p>	